

大田原文化



第34号
大田原文化協会
令和7年度

目次

一	ごあいさつ	大田原文化協会会長	田中 和夫	1
二	明治のナイチンゲール大関和について	大田原市黒羽芭蕉の館学芸員	新井 敦史	2
三	文芸部			
	短歌部門	大田原短歌会	藤沼緋紗子	4
		令和の短歌ブーム	藤沼緋紗子	6
	俳句部門	大田原俳句会	中山 逍遙	7
		風の会	直篁 正美	11
		秋桜の会	森 加名恵	12
四	美術部			
	美術品を家庭や職場に飾ろう	美術部長	安達 信悟	15
	令和七年の経過	大田原油絵クラブ	蜂巣 貞美	17
	みず絵会のこの一年	みず絵会	越沼てつ子	18
	描くことの楽しさを励みに	黒羽絵画クラブ	遠藤 嵩	20
	花・はな・華	華道	手塚恵美子	21
	暮らしの中の竹製品	竹工芸	阿久津正弘	22
五	茶道部	茶道部	瀬尾 清子	24
	教えることの難しさ	大田原宝友会	蜂巣 貞美	24
六	ステージ部			
	令和七年度のあゆみ	遊月流吟舞会	三浦 恵月	25
	吟詠剣詩舞道	盆栽・園芸部長	平山 正彦	26
七	盆栽園芸部			
	盆栽園芸部門	大田原将棋愛好会	熊田 茂	27
八	囲碁将棋部			
	令和七年度愛好会活動	事務局長	飯島 健司	28
九	大田原文化協会事務局より			
十	編集後記	広報部長		

題字 書家 酒井真沙 表紙 囲碁将棋部 「将棋の集い」

いあいざつ

大田原文化協会

会長 田中 和夫



第四十九
回栃木県文
化振興大会
が、二月

十三日（金）に那須野が原ハ
モニーホールを会場として開催
されました。

この大会の趣旨は、「県内の
文化活動に携わる関係者が一堂
に会して、文化の交流を図り地
域文化の振興に寄与する」とい
うものであります。

毎年、三ブロック（県央、県南、
県北）持ち回りで開催し、県北
はさらに三地区（塩谷、那須、
南那須）に分かれています。那
須地区はご承知の通り、大田原
市、那須塩原市、那須町で構成
されており、今回は大田原市が
主管となり開催致しました。平
成二十四年以来、十三年ぶりの

主管ということになります。

当日は、文化選奨として洋画
の小久保裕氏、文化奨励賞とし
て彫刻の川島史也氏が受賞され
ました。お二人とも、素晴らし
い経歴の持ち主であり、これか
ら栃木県の芸術文化に大いに
貢献して頂けるものと、確信し
ております。

大田原市で文化奨励賞を受賞
された方は、昭和六十一年の日
原公大氏（現大田原市芸術文化
研究所長）、昭和六十二年の藤
沼昇氏（竹工芸の重要無形文化
財保持者）、そして平成二十四
年の磯飛節子氏（竹工芸）の三
名です。残念ながら、文化選奨
の受賞者はありません。

文化の高いまちを目指す大田
原市としては、文化選奨に選出
される方の登場を心待ちにした
いものです。

アトラクションとして大田原
市からは、吟亮流吟風会と遊月
流吟舞会による吟詠剣詩舞「那

須与一宗高」、郷土芸能を楽し
む会による「小唄潮来出島」「黒

羽小唄」「大田原小唄」、黒羽餅
つき唄保存会による「黒羽餅つ
き唄」が披露されました。

県内各地よりバス等で駆けつ
けて頂いた多くの方々から盛大
な拍手を頂き、これからの活動
に対して大いに励みになったも
のと思われまます。

出演した皆様、そして特別企
画への展示に協力して頂いた多
くの方々に、心より感謝申し上
げます。そして裏方として準備
や当日の運営にあたって頂きま
した大田原市文化振興課の皆
様、本当にありがとうございます
でした。

来年の文化振興大会は、鹿沼
市で開催される予定です。

その土地ならではの芸術作品
や舞台芸能を見る事が出来ます
ので、文化協会の皆様、どうか
積極的にご参加いただきますよ
うお願い致します。

◇ ◇

昨年の十二月十八日（木）、
栃木県公館において、第七十九
回栃木県芸術祭の表彰式が行わ
れました。

大田原市関係の受賞者を紹介
させていただきます。

○俳句・文芸奨励賞
西塚とみ子

○彫刻・準芸術祭賞
角谷琴音

○器楽・準芸術祭賞
石井和那

○民謡・芸術祭奨励賞
小藤ツネ子

○吟詠剣詩舞・芸術祭賞
北部地区協議会

（大田原市を含む）

◇ ◇

結びに、この広報誌の編集に
携わっていただきました文化協
会広報部の皆様、そして大変な
労力を割いて下さいました文化
振興係の御担当に感謝申し上げ
まして、挨拶と致します。

明治のナイチンゲール 大関和について

大田原市黒羽芭蕉の館学芸員

新井 敦史

日本看護界の先駆者で、「明治のナイチンゲール」と呼ばれている大関和は、安政五年（一八五八）四月十一日、父弾右衛門増虎・母哲の次女として黒羽（大田原市黒羽地区）に生まれました。増虎は石高二百石で、黒羽藩の家老に就任しています。哲は烏山藩士の娘でした。和の生家は黒羽田町の大宿街道沿いの一角で、現在の黒羽小学校「侍門」の向い側（プール）付近にあったと考えられます。江戸時代、大宿街道の両脇には、黒羽藩士の屋敷が並んでいました。

と長女シンを産みますが、夫とは離婚しています。

明治十四年、和は一家そろって上京しました。当時の知り合い鄭永慶（外交官鄭永寧の息子）の關係で親しくなった外国人女性と通訳を介さずに会話するために、正美英学塾で英語を学んでいます。同時に、この塾の経営者の兄で牧師の植村正久の教会に入ってキリスト教の教義に触れ、受洗となりました。植村牧師は和に対して看護師になるよう勧めますが、当時は他人の病気の世話をする看護師を卑しい職業のように思う風潮がありました。最初は和も同様に思っていました。それでも植村から、看護師の務めは甚だ高尚な慈善の職業だと諭され、ナイチンゲールの逸話も交えて説得されたことで、和は感激し、貴い職業である看護の道を目指すことになったのです。

当時二十八歳の和は、桜井女学校附属看護婦養成所に第一期

生として入学し、鈴木雅ら五名の仲間と共に学びました。ナイチンゲール方式の看護教育を受けていたミス・アグネス・ヴェツチから生理・解剖・看護法・調理実習などを学び、同校の経営者ミセス・ツルーから聖書の講義を受けています。

この後、和は日本で最も早い時期に正規の訓練を受けた看護師（トレインドナース）の一人として活躍することとなります。すなわち看護婦養成所を明治二十一年に卒業すると、帝国大学医科大学第一医院（現東京大学医学部附属病院）の初代の外科看護婦取締に就任しました。第一医院に二年ほど勤めると、同二十三年には退職し、桜井女学校の姉妹校の高田女学校（新潟県上越市）に舎監兼伝道師として赴任しました。さらに高田では、廃娼運動も行っています。

翌明治二十四年、高田に知命堂病院が開院し、和が桜井女学

校附属看護婦養成所時代に指導を受けたことのある瀬尾原始が院長に就任しました。和は瀬尾院長から請われ、初代の看護長に就任しています。開院式での看護長としての和の祝辞原稿も、現存しています。明治二十七年、同病院に産婆看護婦養成所が開設されると、講師として後進の育成に努めたり、伝染病に関する講習を行ったりもしました。

それでも和は明治二十九年、知命堂病院を辞め、東京に戻っています。鈴木雅が設立していた東京看護婦会の講習所の講師に就任し、後進の指導にあたることになったのです。なお、同年には、後藤象二郎の付添看護も行っています。

実は日清戦争の後、明治二十八年には日本各地で伝染病が蔓延しており、看護師に対する需要が急速に伸び、その供給が追い付かなくなっていたのです。

勢い、ほとんど素人に近い女性までが看護師として働くことになった結果、看護師の質の低下が起こり始めてしまいました。

和はこうした事態を憂え、明治二十九年には内務省衛生局長後藤新平に直談判し、規則を制定することの約束を取り付けています。結果的には、同三十三年七月一日、内務省の意向を受けた東京府が全国に先駆けて「東京府令 看護婦規則」を制定するところとなりました。

明治三十二年六月には、自身一冊目の著書『派出看護婦心得』が出版となりました。本書では、看護学を修める必要性を説き、仁慈・敬愛・温和・忍耐・謙遜・挙動静粛・品行方正等々、看護師たらんとする者が心得るべきことを述べています。

明治三十四年一月には『婦女新聞』に「ナイチンゲール嬢」という連載を開始しており、同年には東京看護婦会の経営を鈴

木雅から引き継ぎ、同会会頭に就任しています。

明治三十六年には、大日本看護婦人矯風会という看護師の職能団体として日本で最初に結成された組織が再建され、和はその衛生課長兼遺伝課長に就任しました。日露戦争最中の同三十七年五月八日、市民大祝捷会の提灯行列の群衆が皇居外苑の馬場先門に入ろうとして、多数の圧死者を出した際には、門弟と共に駆けつけ、死傷者の救出に尽力しています。同三十八年十一月には大日本看護婦人矯風会の帰還兵歓迎委員となり、翌年二月頃にかけて、戦争から凱旋する兵隊の歓迎にも全力を挙げました。

その後、明治四十年六月にはリウマチで療養しており、十月には那須湯本に赴きました。ここの療養中、自身二冊目の著書となる『実地看護法』の原稿執筆を開始しており、本書は翌年四月に出版されています。和

の著書は、『派出看護婦心得』が第六版まで、『実地看護法』が第五版まで版を重ねることとなりました。

そして、和五十一歳の時、明治四十二年十一月三日、大関看護婦会を設立、同時に大関看護婦講習所を開所しました。キリスト教の精神に基づく愛と奉仕の心を持った看護師の育成を目的として、後進の育成と派遣業務を通じた実践活動に専念していききました。こうして和は、昭和七年（一九三二）五月二十二日に享年七十五歳で死去するまで活躍を続けることとなったのです。

黒羽芭蕉の館では、昨年十月八日（水）から今年三月一日（日）にかけて、企画展「明治のナイチンゲール大関和のふるさと黒羽と医療」を開催しました。①大関和の生涯と功績、②大関和のふるさと黒羽の景観と文化、③大関和が子供の頃の黒羽、④江戸時代後期黒羽の医療という

四つのコーナーから成り、初公開となった三十三点を含む八十四点の資料を展示することができました。同時に図録も制作しており、当館及び本市観光協会にて有償頒布（一冊千円）しています。

なお、本企画展を受ける形で、那須与一伝承館では、三月十四日（土）～十一月三日（火・祝）を会期として、大関和の生涯と功績についてさらなる光を当てた特別企画展「近代看護の先駆者・明治のナイチンゲール大関和」を開催していますので、是非ご観覧ください。



公式キャラクター
「チカちゃん」

短歌部門

大田原短歌会 藤沼 緋紗子

今年度の作品から

永らへて何が嬉しい人の世の

終焉を観る思いつのりぬ

帰るよと声を掛ければ目を伏せし

妻を思いぬ赤信号に

てんという字をいくつか書くうちに

点から天に心翔びをり

ひとりゐて残る歲月指におる

笹の葉音の秘める寂しさ

葉隠れにさす仲秋の月あかり

風の気ままに動く風流

栄子

昭和より百年めぐりて風あらた

女性総理の生まれし時

松茸は今年も不作と聞きしまた

パックの表示一円円越え

「台湾有事」起こらぬことを願ひつつ

氏神さまに手を合はせたり

不条理に死すことありし水害の

瓦礫の山は四メートルを超ゆ

早池峰の想像絶する石山を

息吐きつつはしご登りゆく

初代

一人居を訪ふ庭に大株の

アメジストセージ秋陽にまぶし

いつの間に入る日差しは長々と

明かし窓辺に本をひらきぬ

密林と見紛ふ程の庭先の

雑草引きぬ獣のごとく

両手にも背にも大きな荷物持ち

二期終えし子等の歩きぬ

西日射し影絵のごとき窓外の

おぼろなる木々光に従す



新年会

握る手の温み忘れじ弟よ

私の心に君生き続ける

生き方に素数のごとき道むずかし

心のなみは奇数にゆれる

老犬と老いしおのれと歩みゆく

残り少ない日々を分かちて

笑うこと忘れたわけじゃないけれど

心の笑みはただ静けさに

家の音 音はなけれど確かなる

気配となりて心に響く

尚武

同級生屋台祭りに集まりて

初恋のはなし我も仲間

人生の心の天気雨宿り

長く病みたる妻の回復

「湧き水は街をめぐり」ではじまりし

わが故郷を古地図に読みぬ

まだ八十もう八十やと釜のふた

饅頭食べて今は倅せ

結婚の祝い孫に聞きたれば

庭にプレハブほしといひぬ

満寿子



園恵

浴室の迷い込みたる蟋蟀を

つまみて放てばコロコロと鳴く

どんぐりの実のつかぬ山をさまよえる

熊の出没冬の日近し

昨夜の風庭一面に葉を散らし

掃けども積もる思いのままに

陽だまりの紅き山茶花色冴えて

冬日の庭にまなこ遊ばす

人々の新たな祈りつつみ込み

鎮守の森に祝詞のひびく

人からも見立てもまた難も無く

かかりつけ医の口コミを見ゆ

印刷の賀状に文字を添えぬまま

断ち切り難き思ひのありぬ

箸置きに色それぞれの箸置かれ

世界は家事に整えられる

渡り来るつばさ揃へるものたちよ

立冬の空深く息づく

カーナビの指示する更地の浜通り

セイタカアワダチソウへ海鳴り

正美

高齢者認知度テストに緊張し

思い出そうと焦りに焦る

ひらひらと舞い落つる葉よもみじ葉よ

風に吹かれて足元に舞ふ

十五夜にまだかまだかと月を待つ

まだかまだかと宴会始むる

初釜に花びら餅を食べながら

今年は何をなさんと思ふ

七日早や門松乗せし軽トラを

見送りながら時を思へり

良子

生涯学習フェスティバル(十二月六日)



空遠く澄める青にもヒツジ雲

いつのまにやら秋は来てをり

平然を装ふほかの術もなく

その平然を人はかなしむ

冬立ちぬ指先少し冷えてきて

今朝はシチューを作らむとする

若松の深き緑に心澄み

良きこと起こる気配満ちたり

子どもらの帰りし正月三日には

パズルの一片残りてゐたり



令和の短歌ブーム

藤沼 緋紗子

若者の言葉で何げない日常を詠む魅力が、一般に広がるきっかけとなった俵万智さんの『サラダ記念日』（昭和六十二年）ですが、今、また令和の短歌ブームといわれています。インターネットやXなどのSNSの普及により手軽に作って投稿・鑑賞できる「短歌ア

プリ」が人気を集めています。

「ほんとうにあたしでいいの？ずぼらだし、傘もこんなにたくさんあるし」（岡本真帆）

短歌を良く知らない人たちにも知られる「有名な歌」になっています。

「黒ヒゲの危機一発で飛ぶようにパワハラ上司即座異動す」（伊藤枝里）

企業にパワハラ研修が義務づけられ、周りの意識も変わって共感するのでしょうか。

「残業は死んでもしません私と次の次の次の人のため」（石谷亜衣理）

自分が無理して働くと、後輩たちに同じ働き方を強いてしまうと思ひ、定時に颯爽と帰っています」と石谷さん

「行動したって変わらない」と諦めてしまいがちですが、私たちが今、自由や権利を享受できているのは、「前の前の前」からの世代が行動してくれたからだと思ひます。

現代の短歌は現代の口調やくだけた話し言葉で歌われたものが多く、比較的内容も自由度が高いため、親しみやすい印象を受けます。短歌には現代人が求める「つながり」と「癒し」の要素が詰まっています、多くの人の納得や共感を誘い、令和の短歌ブームに繋がったのかと思ひます。

俳句部門

1. 大田原俳句会 中山 逍遙

◎第三十六回黒羽芭蕉の里全国俳句大会

自由題の部

高田正子 選 推選

にんげんをあきらめない日原燦忌 星 樹人

特選

雪柳純粹すぎたのだと思ふ 星 樹人

秀逸

溪流に桜つめたく咲きにけり 星 樹人

中原道夫 選 秀逸

鴨の足足足足寄りて来る 星 樹人

速水峰邨 選 特選

水鳥の水鳥である池の中 星 樹人

◎第七十七回那須地区芸術祭俳句大会

十月二十五日(土) 黒羽公民館にて開催

自由題の部

新井敦史 選 特選

ひとしきり降つて気のすむ雷雨かな 森 加名恵

秀逸

巡り来て杏子の蛍飛ぶ夜かな 齊藤 民恵

入選

夕呉れて肌打つほどや虫時雨 星 樹人

席題の部 入選二位

新井敦史 選 推選

うれしきは空広きこと石叩き 星 樹人

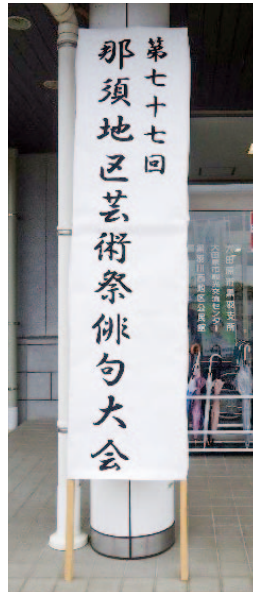
秀逸

石たたきごみ収集車と先競ふ 中山 逍遙

鶴鶴の叩きし肩や不登校 飯島 健司

互選 入選

石たたきごみ収集車と先競ふ 中山 逍遙



◎四季 詠(句会報より)

月一回開催の定例会にて持ち寄り句と欠席者投句を合わせて吟味しています。

新年

墨痕に命宿れり吉書かな 和子

今日よりは白寿への旅年新た 悟郎

献血を成人の日の一步とす 圭子

春

転勤の悲喜交交の櫻かな 逍遙

投げ出して春の眠りのふくらはぎ かつ子

夏

子どものままならぬ世の浮き沈み 節子
さくら咲くみな私の応援団 吟子

草いきれ放牧牛の重き尻 民恵

猿回し見えていて迷子夏祭 樹人

草いきれ町まで続く獣道 晋一

秋

奥能登と太き筆字や今年米 健司

後戻り出来ぬ人生彼岸花 勝美

秋澄むや妊婦に届く博士号 まさ子

自民党総裁初の女郎花 雅典

冬

凧揚げを出来ずに地球を引きずる子 加名恵

残響を凍らせ四時の救急車 小来川



学校出前講座と梅雨鯨

飯島 健司

黒羽俳句全国大会の楽しみの一つに、選者による学校出前俳句がある。コロナ禍で出来なかつた二年を除いて、毎回開催されている。今年度は高田正子先生が引き受けてくれた。見学希望者は参加できるので、事前に文化振興課に申し込みをした。

大会の翌日の午前中に、市内の小学校を訪問した。梅雨時であったが、晴れの暖かい日であった。二校時は、三、四年十六人の合同の授業である。先生は、児童に俳句の約束を二つ説明した。一つは、五・七・五の十七音で表現する。二つ目は季節の言葉を入れること。にわとりがテトテト歩く梅雨晴れ間（小四「こども歳時記」この句のように、自分が思ったことを、季語を入れてリズム良く表現し、様子を説明しないことを確認した。

その後、校庭へ出てミニ吟行をした。青芝の中には、たくさんのネジバナが咲いていた。バツタを見つけた子もいた。思い思いに俳句の材料や俳句をメモしながら、時には高田先生に質問して、楽しく充実した時間をすごした。休み時間の後、三校時に自分の句から一

句を清書した。

夏ツバメちようとつきゅうで虫たいほ（児童作）
青がえるそこにねとまり色がわり（児童作）
十六人の俳句の力作が、担当の先生によって黒板に書かれた。高田先生が全員の句の評を述べて授業は終了した。

蛇足であるが、この日の朝、保護者が学校に持ってきてくれた鯨を見て、私も一句出来た。「捕はれて校長室の梅雨鯨」。七月例会に投句した。

次回の学校出前講座も、都合をつけて参加してみたい。

俳句雑感

君嶋 かつ子

私が俳句をしているらしいと知って「夏井いつきさんのプレバトおもしろいですね」と声をかけて下さることもたびたび。そこで「句会を覗きに来て見ませんか」と言うと、私には無理と断られてしまう。

思い返せば私も古川忠利さんに誘われて初めて句会に出た時は緊張して終ってから頭が疲れたという思いでした。

それから大田原俳句会へと・・・

最近私は真面目に俳句に向かっているのか、選句にも謙虚さを以って選句出来ている

か反問してみる。習練あるのみと自分に課している日々であります。

虚子の「秋風や眼中のものみな俳句」のように心を澄ませているべきと言い聞かせてはいますが・・・

新たな発見

田中 小来川

「ああ暑い猫のおっぱい八つある！」

小学生の孫娘が詠んだ句である。あまりの暑さに、猫が腹を出して伸びているのを見て、おっぱいが八つあることに気付いた事を表現している。

俳句は発見の文学であると思っているが、過去から現在まで、気の遠くなるような数の俳句が作られている。それらの俳句をさておいて、新たな発見などできるのだろうか。

孫娘はまだ人生経験が少ないが、70年生きてきた人間が、新たな発見など、出来るのだろうか。

無理だな、と思いつつも、苦吟しながら新たな発見を目指して徘徊する毎日である。

飯坂温泉

福田 節子

友人が当たった宿泊券に便乗して飯坂温泉に一泊した。

雪道に難儀しつつ外湯の鯖湖湯へ。

早朝にもかかわらず先客が。

聞けば毎日一番湯に浸かっている。と羨ましい答。

四十八度の熱さに閉口する私に、笑ってホースの水を差し向けてくれた。

この鯖湖湯は飯坂最古の外湯で松尾芭蕉も入浴した。かも、しれないそうだ。

帰路、医王寺の芭蕉句碑を訪ねた。

「笈も太刀もさつきにかざれ紙のぼり」

元禄二年五月二日 芭蕉

おかげさま

林 圭子

私は現在大田原句会に在籍していますが、体の事情で句会の出席はできません。投句だけなのに出席者同様に扱ってください。事務的にも余計な手間に申し訳なく思っています。

同じように書のおけいこにも仲間の助けを借りています。しかしいつまでもこのままでいいのかとよく悩みます。

いっそのこと引退した方が気が楽になるかもしれません。

私の人生で大勢の出会いも「おかげさま」によって支えられ進展していたことを今にしてつくづくありがたいと思っています。

おれおれ詐欺

相澤 和子

二年前の話である。背骨の手術の為長期入院して退院し、十日位たった二月の夕方四時頃、市の健康保険課と名乗る男から電話があった。「遡って五年間の医療保険の払戻金が三万いくらある。申請の期間が過ぎているが口座に入金する方法もあるので」と取引銀行を聞かれた。十分位するとその取引銀行より電話があり「市よりの要請があり振込手続きを取りたいので念の為口座番号と暗証番号を言ってみて」と言われた。ところが「口座番号にその暗証番号を打ち込むとエラーと出るので調べてみたらそのカードは防犯上改訂されているものなのでたまたま近くに行っている行員が取りに寄るのでカードを渡してほしい。新しい物は後日郵送となります」とのこと。何分もしないでチャイムが鳴った。私は封筒に自分の名を書き（あちらの要望）暗証カードを入れて渡した。

若い男はそれを手に取ると脱兎の如く駆け出し歯医者の前に止めてあった小形の白い軽

自動車に飛び乗り即座に発進した。

その時初めて「あれ」と思った。とりつかれた様な数十分間、これは何だ。ちよつと変だ。私は躊躇しながら金融機関に電話を入れて口座支払い停止を依頼した。

三十分後、近くのコンビニのゴミ箱にカードと封筒が捨ててあった事が警察により確認された。これはたくさんあった事例のようだが、人間の目込まれると頭が真っ白になる反省である。

今は警察を装い、逮捕までちらつかせながら巧妙な手口で我々を落とし込んでくる。テレビのニュースを見たり手口を知ったりして詐欺にかからないようにしたいものだ。

ひろい読み

斉藤 民恵

(一) マルティンルター

「たとえ世界が明日終わりであっても、私はリンゴの樹を植える」に倣って柳田邦男「たとえ世界が明日終わりであっても、私は朝の野菜サラダを作る」を生活信条にしていると。含蓄のあることばを見つけました。

(二) 梅の季節になり梅干、梅ジュース等を作るご家庭もあることでしょう。梅に多く含むクエン酸は消化酵素の分泌を促す効果が

あり食欲増進に期待できる。

合わせて殺菌、抗菌効果もあるので食中毒の抑制になる。疲労回復、老化防止も期待出来るとのことです。

夏を乗り切りたいと思います。

レタス美したつぷり盛り盛りに夏料理 民恵

(三) 卵のカラザ

卵を割った折、黄身に白い紐がある。栄養価が高いので食べましょうと。



(黄身の回転を防ぐそうです)

「季重なりは当たり前だ」

星 樹人

松尾芭蕉

蛤(春)のふたみにわかれゆく秋(秋)ぞ

しばらくは滝(夏)に籠るや夏(夏)の初め

雲の峰(夏)いくつ崩れて月(秋)の山

一家に遊女もねたり萩(秋)と月(秋)

乾鮭(冬)も空也の痩せも寒の内(冬)

※芭蕉は生涯の全句のうち15%ほどが季重なりだそうで、季重なりがだめなどと言っていると与謝蕪村の

菜の花(春)や月(秋)は東に日は西にもだめ、ということになります。

「季重なり」名句◇

手の薔薇(夏)に蜂(夏)来れば我王の如し

中村草田男

くろがねの秋(秋)の風鈴(夏)鳴りにけり

飯田 蛇笏

啄木鳥(秋)や落葉(冬)をいそぐ牧の木々

水原秋櫻子

かりかりと蠅螂(秋)蜂(春)のかほを食む

山口 誓子

打水(夏)や萩(秋)より落ちる子かまきり(秋)

高野 素十

障子(冬)しめて四方の紅葉(秋)を感じをり

星野 立子

約束の寒(冬)の土筆(春)を煮て下さい

川端 茅舎

除夜(冬)の妻白鳥(冬)のごと湯浴みをり

森 澄雄

※飯田龍太の言葉…「自然の方が季重なりであるのだから、句が季重なりになるのは当たり前だ」

2. 風の会

直篁 正美

● 活動内容

私たちの暮しは四季の移り変わりりと深く関わっています。ふとした発見・驚き・喜び・違和感など訪れる心情に俳句という文芸は言葉による「形」を与えてくれます。句会はその「形」を理解し共感し評価する場です。

句会「風の会」は、俳句という文芸に触れあう場と時間の共有でありたいと思います。

生涯学習センターにおいて、毎月二回、句会を実施しています。時折り俳句講座あるいは設問形式の俳句トレーニングなどを交えながら、俳句の時間を共有しています。天候や安全に留意しながら、句会場の外に四季の俳句を求めている吟行も計画しています。

● 令和七年度俳句大会の成果

◎黒羽芭蕉の里全国俳句大会

自由題の部

藤本美和子 選 佳作

修正の跡ある日記麦の秋 塙 ひで子

稲を刈る鳥海山のふもとまで 高宮 玲子

中原道夫 選 佳作

遠花火とは終焉を知らされず 直篁 正美

席題の部

高野ムツオ 藤本美和子 選 入選

川よりの山よりの風結ぶ夏至 直篁 正美

◎第七十七回那須地区芸術祭 俳句大会

席題の部

新井敦史 選 特選

校庭に鶴鴿の声子等の声 塙 ひで子

● 会員近詠（令和七年の句会から）

薫風や錆びて風見ぬ風見鶏 君嶋 葵衣

外套を預け葬儀の人となる 伴 かほる

玉葱を吊りてひと日の序となせり 佐藤えいた

父の日や老いて益々辞書が好き 日永 順子

干梅の昨日の皺を裏返す 高宮 水葉

咲く花を見つつ散りゆく凌霄花 後藤 比呂

夏痩せのズボン安全ピンが留め 塩野 未季

冬瓜やレシビを添えて売られをり 塙 ひで子

稲刈のかけら噴かるる藁烟 直篁 正美



3. 秋桜の会

森 加名恵

● 活動報告

今年の大きな行事の一つに秋桜の会の母体である結社、百鳥（大串章主宰）の同人ミニ吟行が宇都宮の飛山城址公園にて開催された。通常は百鳥同人のみの参加であるが、栃木県内の雑詠欄の仲間も参加できる事になり、秋桜の会の全員に声を掛け、百鳥の関東勢を含む五〇名の参加になった。大串主宰は都合により不参加であったが、百鳥重鎮の先輩の講評もあり、最後に望月周編集長の、「大串章「ゴー」と題してミニ講演を聞くことが出来有意義な一日を過ごした。大串主宰の選も追って届き、なんと秋桜の会の仲間が大勢入選されていて驚いた。雑詠欄の仲間の活躍に目を見張るものがあり先々がとても楽しんだ。

● 八月の会報より（本部）

冤罪といふ重き罪半夏生 道 遥
 子の両手翼となりて夏野原 恵 子
 玄関に靴が飛び散る夏休み 絹 女
 山の湯に道標あり合歡の花 一 典
 ゆりかごの光織りなす落し文 浩 二
 炎天を焦がせ私の魂よ さとみ
 雲の峰真青なる空一人じめ ひろみ

吾の五福ひとつかふたつ合歡の花 加 代
 母が抱けば泣き止む赤子合歡の花 加名恵

● 佐良土支部（七月の会報より）

祭笛妻の命日告げるやう 義 郎
 落し文何やらときめくものあり ふみこ
 徘徊か散歩か汗を滴らす 清
 白南風や猫は大の字仏顔 草 秋
 夏野菜籠いつぱいのおすそわけ 明 美
 木漏れ日の水面におどる落し文 佐くら
 柔らかに卵を抱きし落し文 敏 子
 糸満に慰霊の塔や仏桑花 晋 一
 豪商の百畳敷や夏障子 からぬ
 夏旺ん潮の香たぎる漁師小屋 加名恵

● 令和七年度の活動成果

◎黒羽芭蕉の里全国俳句大会

自由題の部

高田 正子 選 特選
 一陽来復厨に届く朝日かな 野口ふみ子
 高野ムツオ・高田 正子 選 佳作
 草笛を追ひ草笛を鳴らしけり 江連 一典
 西日射す故郷を捨てて来し我に 森 加名恵
 高野ムツオ 選 佳作
 瓦礫浚ふ重機春泥したたらす 山之 内清
 速水峰邨 選 佳作

柚子坊の引つ越してゐる犬走り 江連 一典
 ◎柳まつり全国俳句大会

古澤宜友 選 特選

泥田出て春滴らすトラクター 山之内 清
 副神規子・古澤宜友・速水峰邨・柴山要作
 各選者の入選者は次の方々です。

連山を従へ雪の茶臼岳 森 加名恵
 一本の道末黒野を貫けり 江連 一典
 春泥や戦禍の子等はひた走る 伊藤 草秋
 曾祖母も曾母も短命昭和の日 江連 一典
 けぶらひて連山隠す野焼かな 山之 内清

百鳥同人ミニ吟行会

部長 木下 浩二

六月八日、百鳥（ももとり）吟行に参加して来ました。私にとって初の百鳥同人の吟行会に部長になり立てでもあり思案しましたが、秋桜の会森代表の補助に徹し、会員の實力の現状を素直に出せれば、そして何よりお迎えする皆様が気持ち良く吟行できれば、との思いからです。

四月下旬の飛山城への下調べは本部の大和あい子氏、村田美穂子氏。こちらからは森代表、福田さん、江連さん、久保田さんと私の

五人で参りました。暑さの中の城址への長い道のり、道々の家並みの花々、途中で見た古墳跡など、その時の会話等が思い起こされ今となれば良き思い出です。

当日は天気にも恵まれ宇都宮駅東口に九時集合し改札口での出迎えと、LR T乗り場への案内をしてかなり忙しかったです。飛山城駅から城跡公園まで下見は歩きましたが、本番はバスでの移動で十時半着。歴史館にて飛山城跡案内のビデオを見て、いよいよ吟行開始。飛山城からの鬼怒川の眺めはとても素晴らしいものでした。昼食は各自、飛山公園でとり、来た時と同じレンタカーで移動して句会場の清原市民センターへ。何しろ総勢五十名の大人数です。同人諸氏の手慣れた進行で投句・選とスムーズに進み感激しました。俳句の奥深い世界に触れる機会をまの当たりにして誘ってくれた森代表には感謝です。四月・六月と同じ場所へ行つた者として俳句は、季節の移り変わりに反応する人々の営みの文学だなと改めて感じ入りました。また機会があれば是非参加したいと思います。



私と俳句

関谷 加代子

私が俳句という十七音の短い芸術に出会ったのは、六十歳の時でした。初めは難解で、古めかしいものだという印象を持っていました。その印象が変わったのは、句会に出ようと思った時です。

短い言葉を並べるだけでは散文になっってしまう。そこで季語について調べてみました。

季語とは、単に季節を表わす言葉では無くその言葉の裏に込められた情景や感情の広がりを持つことを知りました。

この発見から、私の日常は少しずつ変わっていききました。

それまで見過ごしていた日常の風景が俳句の「種」のように見え始めました。

私は普段の何気ない一瞬を、「今」を切り取る行為として、意識するようになりました。俳句は私にとって、日常を豊かにする「心のアンテナ」になりました。

これからも俳句を通して、移り行く季節の美しさや、人との繋がりの中で生まれる感情を大切に切り取り続けて行きたいと思えます。いつか自分の詠んだ句が、他の誰かの心にも小さな情景を描き出すことが出来たらと

思います。

俳句の楽しみ

山之内 清

俳句の楽しみにはいろいろあるが、特に三つあげるとすれば、次のようなことである。一つ目は「共感」の楽しみ。季節が移ろう中で、日常生活の哀歓や思い、自然の美しさ・厳しさを詠むのが俳句である。何の為に？表現したかった感情や思いを汲み取って共感してもらおう為。句会では互選という方法で、共感度を測る。互選の点数が高い程その句に「いいね！」と思った人が多いという事になる。私の句の場合、「一椀の味噌汁句ふ今朝の秋」や「這ひ上がり棚田かき消す朝の霧」に共感してくださる方が多かった。互選で高得点を得たときは嬉しい。零点の時はもちろん落ち込む。

二つ目は「向上」の楽しみ。私は令和四年の二月から秋桜の会に入会して、もう四年になる。会報に「私ならこうする」という添削例が二十句以上示されていたのが入会の理由である。人の句を添削するのは難しい。一句作るのと同じくらいエネルギーがいる。その手間を惜しまない方が指導しておられる句会

に参加して自分を磨きたかった。入会後は期待通り句作のノウハウを勉強でき句会に出るのが楽しみになっている。

三つ目は「出合い」の楽しみ。秋桜の会にシルバー大学出身者が多い中、そうではないのに参加当初から親しくして貰えて有難い。今では句会の席で人柄や生活の一端がわかり、戦友の感じがしてきている。これからも俳句をライフワークとして楽しみたいものである。

俳句にもらう力

金子 からぬ

二年ほど前に「秋桜の会」佐良土支部に入会し、森加名恵代表のご指導をいただいています。毎月、頭をフルに使っているのですが、何しろ自分の中身で詠むしかないものですから、教養不足は元より、文語の文法や仮名遣いの知識の無さ、語彙の乏しさには何とも悲しくなります。

四月の句会のこと。「目をとちて見る産土の桜かな」の句に強く惹かれました。特選に選んだ理由を「これは私が詠んだ句です、と言いたいほどに私の思いに重なります。眼前の桜よりさらに美しく、儂さをも感じます」

などと胸がいつぱいでしどろもどろに。森代表の句と知り、失礼を心の中でお詫びしましたが、私の胸に深く響く一句でした。当の自分の句は、なかなか選を頂けません。でも、一人であったとしても共感を得られれば幸せな心持ちになります。

晩学の上、上達には程遠いけれど、俳句という苦しくともやめられない生涯の愉しみを与えられたことは本当に幸いでした。そして、作句は孤独な作業ですが仲間と共有する句会の時間はまた格別な場でもあり、これからも大切にしていきたいと思っています。

美術品を家庭や職場に飾ろう！

大田原文化協会美術展

美術部長 安達 信悟

第四十回大田原文化協会主催の美術展を昨年のテーマ「親しみやすい美術展」から『美術文化で癒しの大田原市に』をモットーに【美術品を家庭や職場に飾ろう！】をテーマに十一月二二日～二四日の三日間、那須野が原ハーモニーホールの第一・第二ギャラリーとスロープにおいて、美術部会員一五三名の力作を一九四点（過去最多）の一斉展示を開催しました。

展示内容は、初めての分野に「ペーパーキリング」が参加された。「トールペイント」は20点で華やかな展示と成りました。また、洋画部門では昨年引き続き小・中学生の見事に生き生きとした作品に感動しました。

（出品数推移参照）

来場者は三日間で五一〇名と

多くの方に大田原の芸術文化を鑑賞して頂きました。

今回は記念事業として展示品を家庭や職場に飾って頂く目的に譲渡可能品を26点出して頂きました。初の試みで試行錯誤しましたが2点の譲渡と成りました。市民に飾って頂く企画は今後も是非続けて欲しいと言う意見を多数頂きました。次回以降は知恵と工夫を凝らして「美術文化で癒しの大田原を！」実現に向けて推進して参ります。

アンケートを書いて頂いた、来場者の88%が60歳以上の高齢者であり、児童や学生さんや現役世代が多様化する社会で、ワークライフバランスや趣味での芸術・文化への参加を啓蒙し心豊かな人作りに努力する事が必要と思われました。

寄せられたコメントでは素晴らしい作品、楽しく、久しぶりに心が癒された、感動した、毎年期待しているなど、嬉しいお声を多数頂きました。

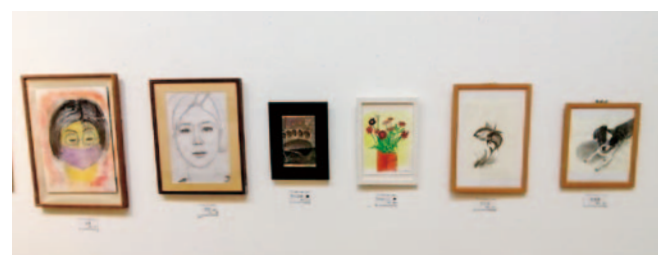
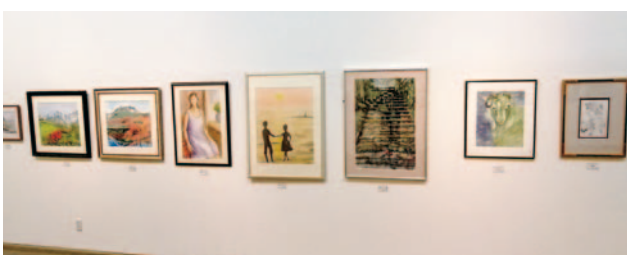
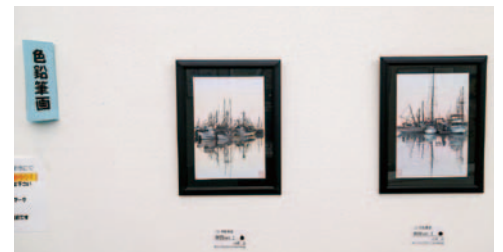
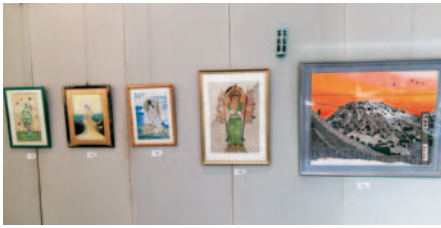
来年の開催は十一月六日（土）

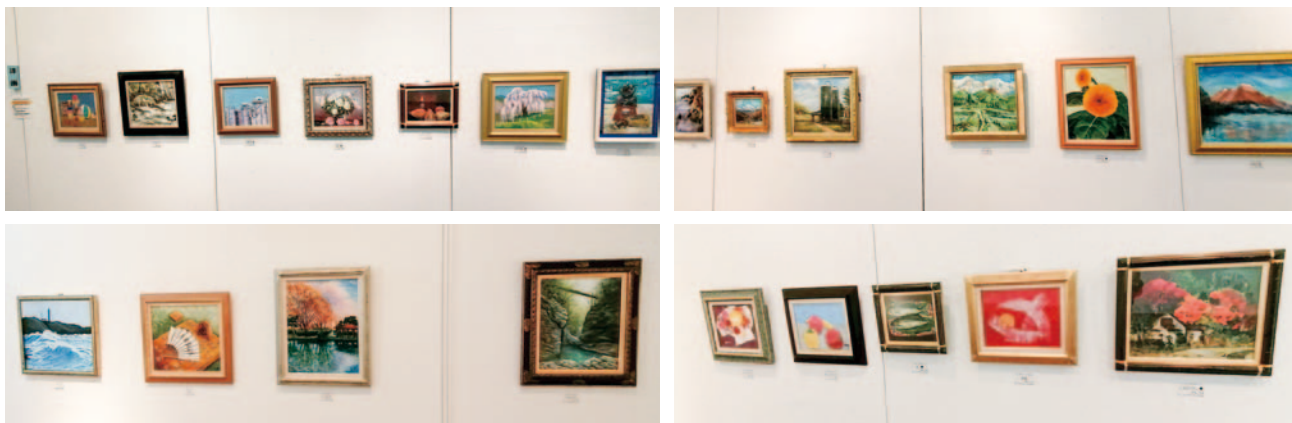
（八日（日）の三日間、那須野が原ハーモニーホールで開催予定です。より多くの作品と多数の参加をお願い致します。新しい分野の参加も歓迎致します。今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

大田原文化協会 美術展の出展数推移

部 門	第36回	第37回	第38回	第39回	第40回
洋 画	31	35	27	26	31
日本画・仏画	2	8	7	6	6
水彩画	15	21	19	20	24
写 真	10	12	16	17	16
華 道	17	19	15	19	15
色紙画	17	15	12	13	14
陶 芸	20	23	23	20	27
書 道	15	13	14	14	13
竹工芸	13	13	13	15	15
彫 刻	10	8	9	8	6
版画・絵 切り絵 鉛筆画	3	4	6	4	7
トール ペイント	9	11	10	7	20
展示合計	162	182	171	169	194







令和七年の経過

大田原油絵クラブ 蜂巣 貞美

今年度はこれまで続けて参加していた西地区文化祭はクラブでの参加はできませんでした。あとは例年どおりの出展参加ができました。

県展には二人入選しましたが、そのうちの一人が途中退会しました。今年度は小学生一人、中学生一人が勉強しています。が、大人は高齢化、その他の理由で教室にての勉強に來られない状態が続いています。

講師の齋藤先生は今年も日展で十三回目の入選を果たしました。名誉市民並みです！

先生が頑張っているのに私共生徒の方が参加者がいなくなり、二十年以上続いた油絵クラブは今年度で解散することになりました。突然のことで文化協会にはご迷惑をおかけいたしましたが、お許しただきたく存じ

展示会参加状況

月 日	発表会名	会 場	参加者
9月20日～10月2日	栃木県芸術祭美術展	栃木県立美術館	2
10月11日～10月13日	那須地区芸術祭	那須町スポーツセンター	2
10月18日～10月19日	大田原西地区文化祭	西地区公民館	2
10月25日～10月26日	大田原東地区文化祭	東地区公民館	1
11月22日～11月24日	大田原文化協会美術展	ハーモニーホール	8

ます。
今後は齋藤勝美先生の下、個人で文化協会美術部に参加することになりますので、よろしく
お願い申し上げます。



「薔薇」F6号 山川喜世三



「おち葉」F4号 岩上知子



③



④



②

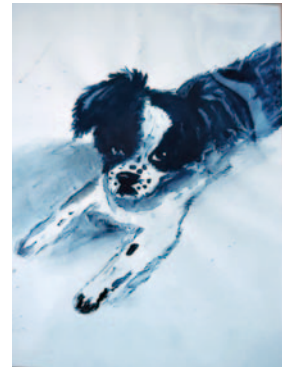


①

	題名	氏名	サイズ
①	生命枯れても会津の土蔵	蜂巢 貞美	F 80号
②	常夜燈台	山川 喜世三	F 50号
③	パブリカ	田代 椿姫	F 5号
④	おもちゃ	後藤 皐	F 5号
⑤	愛犬虎太郎	塚田 莉心	A 4
⑥	マグロ	塚田 莉心	A 4



⑥



⑤

みず絵会のこの一年

みず絵会 越沼 てつ子

五十数年の伝統ある「すみれ会」を母体とした「みず絵会」として今年度も継続できたことを嬉しく思っています。

今年度は、若い男性の入会もあり、新たな気持ちで元気をいただいています。

静物・人物・季節を感じながらスケッチにも出かけ風景画等指導者もない中で、個性を大切にしながら楽しんでいきます。

老いも若きも文化を育み、心を楽しませるためにも芸術に触れて、精神的にも生き生きと豊かに生きることが大切だと感じる今日この頃です。また、おしゃべりも人と人が交わるチャンスととらえ、一つの交流の場としての輪を少しでも広げていきたいらと願うばかりです。

作品の出版の機会も多く、多忙な一年でしたが、各々、生かされたのではないかと思っています。

第77回那須地区芸術祭



月日	出展内容等
10月11日 ～13日	第77回那須地区芸術祭 那須町スポーツセンター アリーナ
10月18日 ～19日	西地区公民館祭り
11月22日 ～24日	第40回記念大田原文化 協会美術展 那須野が原ハーモニーホール
12月6日	ふれあい生涯学習 フェスティバル 大田原市生涯学習センター
2月13日	第49回栃木県文化振興大会 那須野が原ハーモニーホール
3月6日 ～8日	第8回みず絵会水彩画展 那須野が原公園緑の相談所

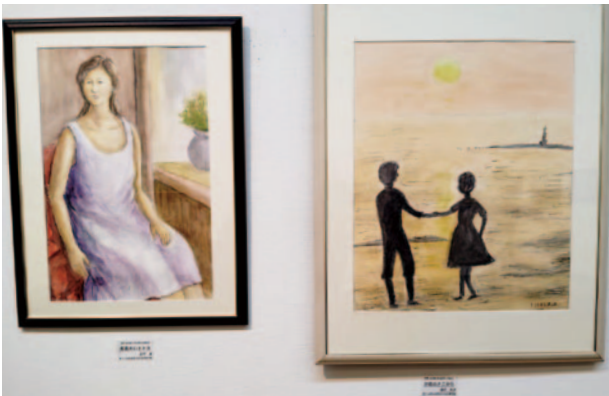
第 77 回那須地区芸術祭



西地区公民館祭り



第 40 回記念大田原文化協会美術展



第 8 回みず絵会水彩画展



ふれあい生涯学習フェスティバル



描くことの楽しさを 励みに

黒羽絵画クラブ 遠藤 嵩

当クラブは市民講座の絵画教室で五年間学び、講座終了後に更に絵画を楽しみたいという仲間九名で結成した自主グループです。水彩画が基本ですが、パステル、色鉛筆、アクリル画等各自が好きな画材を使って描いています。

活動は黒羽・川西地区公民館で月二回行っています。一回は市民講座で習った菊地由利子先生に講師をお願いし、作品の講評や指導を受けています。他の一回は自主活動で作品の作成と意見交換を行い、お互いのレベルアップをはかっています。

毎月一回、先生の指導を受けるため、作品づくりはほとんどが各自自宅で描くことが基本になっています。先生から出された課題を描いたり、風景画、人物画、静物画等各々が好きな題

材を描いています。題材探しには皆さん苦労しています。完成した作品は公民館の会議室に展示させていただき、会議室を利用する方々にも見ていただいております。

また、交流の場として年一回、市民講座絵画教室の皆さんや他の絵画グループの皆さんに声をかけて、私たちの教室に来ていただき、先生からの指導の様子や作品を見ながら意見交換を行っています。

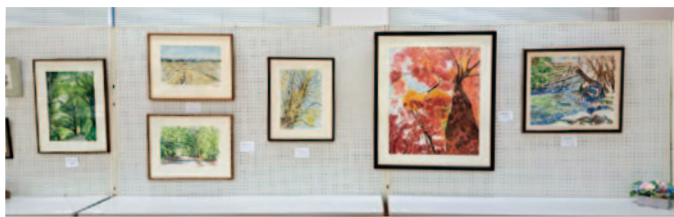
発表の場として年一回、三月に公民館ホールをお借りして作品展を開催しています。これには市民講座絵画教室の皆さんや他の絵画グループの皆さんの作品も展示する合同作品展として、多くの方々にご案内して好評を得ています。

また、外部での発表として、大田原文化協会美術展への出展、黒羽・川西地区公民館まつりにも出展しています。さらには個人的に栃木県美術展への出

展はじめ各地の美術展の出展を行っており、入選するなどの成績を上げているメンバーもおります。

少人数のグループですが、絵を描くことの楽しさと、仲間との触れ合いの喜びを励みに頑張っています。





花・はな・華

華道 手塚 恵美子

「はい、もう一度生け直して」

この言葉は三回繰り返されま
した。当時のお稽古は畳での正
座でしたので、足は膨張し歩く
のにボッタボッタと音がしたよ
うに感じました。

これが私の生け花の始まりで
高校二年生の春でした。

それから毎週土曜日の放課
後、先生のお宅へ通いました。

剣山に自由に生ける、床の間
に生ける、神前、仏前に生ける
方法、学ぶ事は多くありました。
先生は作法や人との付き合い
方もお教えくださいました。

年二回の那須地区芸術祭、大
田原文化協会美術展に出席でき
る今があるのは、師の教えが
あったからだと思っております。

花を見て怒る人はいないよと
言われていますが、もし、この
世に花が全く無くなってしまっ

第 77 回那須地区芸術祭



たらどうでしょうか。こんな馬
鹿な事を考えたことがありまし
た。

以前勤めていた頃、訪問先の
玄関に野の花が一輪生けてあ
り、とても癒された事が記憶に
残っております。



暮らしの中の竹製品

竹工芸 阿久津 正弘

竹は、イネ科に属する常緑性の多年生植物です。その成長速度は驚異的で、一日に一メートル以上伸びることもあります。

また、強度・軽さ・柔軟性に優れており、建材、工芸品、食品など、幅広い分野で利用されています。

さて、皆さんの周りには日常的にお使いの竹製品はありますか。昭和三十年代以降の高度経済成長期のプラスチック製品の普及によって、生活用具としての竹製品が徐々に姿を消しつつあり、さらに生活様式の変化で住宅の構造も和風から洋風に変化してきました。それらの影響もあり身の回りにあった当たり前の竹製品の姿がみられなくなりましたが、竹冠の漢字をみると歴史がわかりますので、代表的な漢字と竹製品についてご紹介したいと思います。

【竹そのもの】

筍 笋（たかむな・タケノコの古名） 笹 篠

春先、地面から芽が出かけているものをタケノコとして食用に利用しています。店先に並ぶものは、孟宗竹。ネマガリタケ（チシマザサ）やハチクなども美味です。

【日用品】かご類以外

筆（筆） 篩（ふるい）
箸 箱 竿 笠 蓑 箕
箒 簾 算盤 笛

食生活から道具など幅広く竹製品が使われてきたことがわかります。珠算や書道の道具、楽器などにも竹が使われてきました。

【産業用品】

筏（いかだ） 簾

第一産業の代表である林業や漁業にも使われてきました。なかかわ水遊園対岸の矢倉が木材を筏にして運ぶ河岸でした。

【日用品・工芸品】かご類

箒（ざる） 篩（ふるい）

籃(かご) 籠 籠

ざる(笊)は、蕎麦やうどんの器として今でも使われています。竹ざるに盛られた蕎麦やうどんは食欲をそそられるものです。笊は、「爪」で手を使って竹を編む様子からうまれた漢字です。

さて、このように生活に根付いて利用されてきた竹は最短三〜五年で成熟し、再生が可能でプラスチック製品と違って自然に還るため、廃棄後の環境負荷が少なく、海洋汚染やマイクロプラスチック問題の解決にも寄与します。最近では、竹製のストローや食器、歯ブラシなどがプラスチックの代替品として広く普及し始めています。

SDGsが掲げる持続可能な目標の達成に向けて、「脱プラスチック」は依然として重要なテーマで竹は代替資源として注目されています。

我々も工芸品だけでなく日常使える「用の美」を備えた竹製

品作りもしていきたいと思えます。

皆さんも環境問題の解決策の一つである竹製品の利用を進めてみませんか？

環境負荷の少ない天然資源 竹

竹の持続可能な管理及び効率的な利用による期待テーマ



代表的な竹製品



味噌こし



飯かご (竹製おひつ)



腰かご



背負いかご



野菜かご



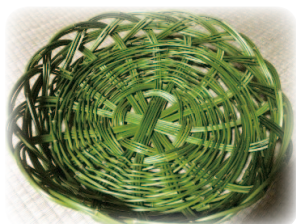
茶碗かご



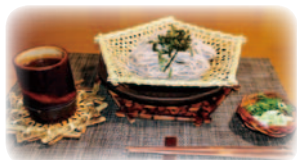
竹の徳利とお猪口



米とぎざる



寒竹かご (オカメザサ)
～梅干し、芋ほしなどに～
昔は脱衣かご



蕎麦ざるセット



蓑虫かご (花かご)
～部屋の片隅に～



鬼おろし
～しもつかれ作りの必需品～

教えることの難しさ

茶道部 瀬尾 清子

毎年のことですが、この時期になると何を書けば良いのか考えます。

私事ですが、お茶とお花のお稽古を習い始めたのは、母がお茶とお花を教えていたこともあり、教えなくてもいいから、お稽古はしてねと言われ、始めました。

お茶のお稽古は、甘えが出るので親子はだめと、細かい所作は母に習って、東京の先生の所に通いました。

お茶もお花も一つ一つ、お免状を取得し、繰り返し練習をすることで興味が湧き、教授の看板もいただきました。母に感謝です。

母の後を継ぐことになり、看板をもらっただけでは不安で、それに教えてくれた母もいませるので、家族の協力で毎月東京に出向き、お茶は大日本茶道学会本部（家元）に、お花は草月

会館（家元）に通いました。

ですが、コロナの流行で、三十数年間通っていた東京のお稽古も終わりにしました。（膝の痛みも理由の一つですが）自分でも良く頑張って通ったなと思います。

今年的那須地区芸術祭茶会も、社中の皆さんの助けで、無事に終えることができました。

令和八年の歌会始めのお題は「明」です。

お題のとおり明るい良い年になりますように願います。



令和七年度のあゆみ

大田原宝友会 蜂巢 貞美

令和七年四月二十日の県文化センターでの宝生流謡曲大会には六名で出演「半部」をうたいました。

十月十五日はご指導いただいたいる前田尚廣能楽師の会、湊朋会の発表会で東京の宝生流の能楽堂で四名で「経政」をやってきました。前田先生に大田原は良く揃ってうたえたとお褒めを頂きました。

十一月九日的那須地区芸術祭（黒羽川西公民館）最後の栃木県芸術祭謡曲大会は県文化センターサブホールで出演し今年の発表は全部やりとげることができました。

能は今から六百年ほど前に、観阿弥、世阿弥父子によって大成された、日本が世界に誇ることでできる伝統的な演劇です。能は、シテ（主役、主人公）が何者かであるかによって、一番目（神）二番目（武者）三番目

（女）四番目（物狂い）五番目（鬼）と大まかに分けられます。また、シテはたいいていの場合、面（おもて）をつけて現れます。

能の流派は江戸期は十流派以上ありましたが現在は五流派、観世、宝生、金春、金剛、喜多になって、各々うたい方に違いがあります。

能は世界で最も古い歌舞でヨーロッパのオペラや日本の歌舞伎の倍以上の歴史があります。戦国時代はすでに武将のたしなみ、教養の一つとして秀吉も集まりごとの時には自ら舞っていました。能の基本になるようなものは奈良時代には中国から伝わってきていたといわれています。

曲目は新しいものも合わせる二百曲以上あります。

私共、宝友会は現在六名でやっています。常時会員募集をしております。伝統文化を幅広く継承するため、多くの皆様のご参加を願っております。

連絡は〇九〇 七四一二
六七五七 蜂巢まで！



吟詠剣詩舞道

遊月流吟舞会 三浦 恵月

今年に入り、各地にて吟詠剣詩舞大会が多く開催されています。永年にわたり携わられた方の姿が見えず、高齢になり離れたようので、残念でなりません。

吟剣詩舞、若い方にとつつきづらいのでしょうか。興味を持たれない目立たない存在のようです。一度、吟詠剣詩舞を見に来ていただけたらと思っております。何か、一般的なイベントとかに参加できないか、栃木県連盟でも模索しているところです。

吟剣詩舞道、心は豊か、体は柔軟に、扇や刀を使用、伴奏、舞手は、詩文に情景を浮かべ表現するのです。実に楽しく別世界です。

生徒と私は一緒に勉強しています。各個人の個性を引き出し、技を習得させ伸ばしてあげます。

げます。

各大会、期待を持って臨んでいますが、全く観客がいません。実に切なすぎます。

私も高齢になり、伝統文化の、吟剣詩舞道行く末を案じているこの頃です。



盆栽園芸部門

盆栽・園芸部長 平山 正彦

令和七年度の盆栽園芸部門の主な活動状況について報告します。

まず、七月十一日から十三日までの三日間那須野が原公園緑の相談所展示ホールで夏季盆栽展を開催した。席数は十六席と若干少なかったが、五葉松が六席と多く、また夏の季節の盆栽展ということで、ヒメハチク（竹）、マユミ、クマシデ、山モミジなどの雑木類が夏の風情を醸し出していた。



十月には第五十八回日本盆栽協会那須支部盆栽展を三日（金）から五日（日）までの三日間那須野が原公園緑の相談所展示ホールで開催した。展示席数は工芸品三席とのコラボ展として二十席だった。

盆栽は五葉松を主木にした席が八席と多かったが、カマツカ、ガズミなどの実物雑木類に、色づき始めたモミジなど秋の気配を感じさせる展示となった。また、工芸品は竹工芸が二席と珍しい硯石が一席とバラエティに富んだ盆栽展になった。





工芸品三席

十一月十四日（金）に研修旅行を実施した。会員だけでは実施人数に足りず会員の知り合いを含めた十三人が参加した。

まず、盆栽のメッカ・大宮の盆栽美術館で五葉松やシンパクなどの名品を鑑賞し、企画展が開催されていた「大宮盆栽村一〇〇周年記念特別展」で盆栽の歴史を勉強した。

埼玉県魚市場の食堂で早めの昼食を食べて所沢方面に向かい、草物専門の喜宝園と所沢園



大宮盆栽美術館にて

芸センターの二カ所を訪問して、草物盆栽や鉢などを購入して帰途についた。

以上が盆栽園芸部門の活動であるが、二月に第百回を迎える国風盆栽展研修を計画している。

令和七年度愛好会活動

大田原将棋愛好会 熊田 茂

「定例会」

年に三回（春夏リーグ、夏秋リーグ、秋冬リーグ）のリーグ戦を開催しています。各リーグで優勝者が異なるなど実力が拮抗しています。

対局結果を点数化して年間順位を決定し、年度末に表彰式を行います。

「将棋道場」

大田原将棋愛好会では、「将棋道場」を月二回、西地区公民館で行っています。今年度は、日本将棋連盟の松本佳介七段が指導に来てくれ、好評です。

誰でも自由に参加できるので、できるだけ多くの人に参加してほしいと思います。将棋の魅力、奥深さを伝えていき、「将棋のまち、大田原」を発展させていきたいと思っています。

「市主催事業への協力」

市教育委員会生涯学習課主催「将棋を楽しもうおわたわら

への協力を行っています。

◎大田原将棋名人杯結果

（敬称略）

・一矢リーグ

大田原小四年 井川慶志郎

・瑠璃姫リーグ

大田原高校二年 野瀧 翔太

・与一リーグ

宇都宮高校一年 大牟禮結人

おめでとうございます。

午後には「将棋の集い」を行いました。日本将棋連盟所属の棋士、女流棋士合わせて六名の方が三十五名の参加者に指導対局を行ってくださいました。

将棋三昧の一日に参加された方は大いに満足されたのではないのでしょうか。



大田原文化協会事務局より

(1)文化協会事業報告

令和7年

4月30日

理事会

(生涯学習センター)

5月30日

評議員会(大田原市役所)

7月11日～13日

夏季盆栽展

(那須野が原公園)

7月21日

将棋の集い

(生涯学習センター)

9月24日

会報編集会議

(大田原市役所)

10月3日～5日

盆栽展(那須野が原公園)

10月5日

茶会(西地区公民館)

10月12日

短歌会(西那須野公民館)

11月2日

産業文化祭

ステージ部門発表会

(県北体育館)

11月22日～24日

美術展

(ハーモニーホール)

12月13日

市民芸能大会

(ハーモニーホール)

令和8年

2月13日

県文化振興大会

(ハーモニーホール)

3月9日

会報編集会議

※書面にて開催

3月26日

会報編集会議

(大田原市役所)

(2)会員加入状況

大田原文化協会の令和8年2月末日現在の会員数は40団体で294名となっています。

(3)各部事業費の配分について

専門部	納入者数 (A)	納入金額 (A × 500円)	配分額 (A × 800円)
文芸	56	28,000	44,800
美術	153	76,500	122,400
ステージ	46	23,000	36,800
囲碁・将棋	11	5,500	8,800
盆栽・園芸	25	12,500	20,000
茶道	3	1,500	2,400
合計	294	147,000	235,200

大田原文化協会 令和7年度役員一覧

No.	役職	氏名	専門部	構成部門
1	会長	田中和夫	ステージ	吟詠
2	副会長	安達信悟	美術	彫刻
3	〃	藤沼久子	文芸	短歌
4	〃	熊田茂	囲碁・将棋	将棋
5	〃	平山正彦	盆栽・園芸	盆栽
6	会計	印南悦子	美術	写真
7	〃	君島景子	ステージ	吟詠
8	理事	石崎直由	美術	書道
9	〃	金沢裕司	美術	写真
10	〃	瀬尾清子	茶道	茶道
11	〃	越沼てつ子	美術	水彩画
12	監事	蜂巢貞美	美術	洋画
13	〃	伴敏美	盆栽・園芸	盆栽

(4)役員名簿

専門部

専門部	役職	氏名	構成部門
文芸部	部長 副部長	藤沼久子 中山久道 子遥	短歌 俳句
美術部	部長 副部長	安達信悟 石崎直由	彫刻 洋画 日本画 水彩画 色紙水彩画 華道 書道 写真 工芸 竹工芸 陶芸
ステージ部	部長 副部長	田中和夫 望月洋子	吟詠 民舞 演劇 剣詩舞 日舞 邦楽 郷土芸能 民謡 三味線 謡曲 新舞踊 豎琴 箏曲
囲碁・将棋部	部長	熊田 茂	囲碁 将棋
盆栽・園芸部	部長 副部長	平山正彦 伴 敏美	盆栽
茶道部	部長	瀬尾清子	茶道
広報部	部長	飯島健司 藤沼久子 越沼てつ子 岩上知子 阿久津正弘	文芸部 (俳句) 文芸部 (短歌) 美術部 (水彩画) 美術部 (洋画) 美術部 (竹工芸)

編集後記

広報部長 飯島 健司

令和七年度も、文化・芸術活動が活発に行われました。二月には、第四十九回栃木県文化振興大会が、那須野が原ハーモニーホールを会場に開催されました。県内から多くの来場者があり、お互いの文化の交流を図ることが出来ました。

さて、今年度は東日本大震災から十五年。宮城県石巻市の大川小学校では、地震による津波で児童七十四人と教職員十人が命を落としました。今も壊れた校舎が残り、震災遺構として、全国から多くの人が訪れています。学校のすぐ横に裏山があり、私も実際に上ってみましたが、なぜここへ逃げなかつたのか疑問は残りました。児童を亡くした親たちでつくる「大川伝承の会」は、この場所から未来を拓くために、命の大切さやよりよい学校のあり方を模索し続けています。

今年もご多用な中、原稿をお寄せ頂きました皆様、またご尽力頂きました文化振興課の皆様に対し、

敬意と感謝を申し上げます。この会報が、更なる皆様のご活躍の礎となりますことをご祈念いたします。



令和7年度広報部



令和7年度
会報「大田原文化」第34号

発行日 令和8年3月31日

発行者 大田原文化協会

会長 田中 和夫

編集 広報部

事務局 大田原市産業文化部文化振興課

電話 0287-23-3129

印刷 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷